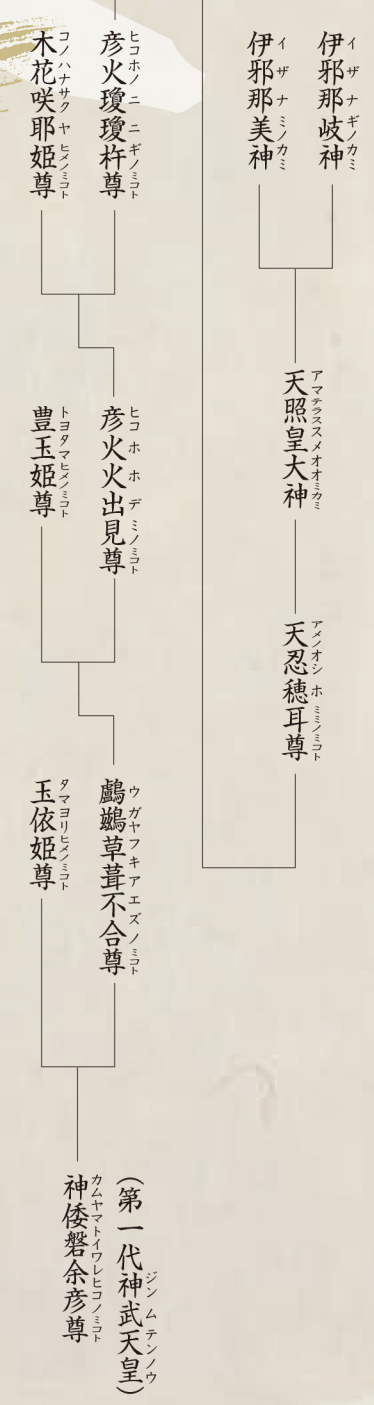




郷土史への扉

御系譜



# 高屋山上陵

タカヤノヤマノエノミササギ

南に桜島を、北東に天孫降臨霊峰高千穂の峰を望む、風光明媚な溝辺の十三塚原台地。そこに位置する鹿児島空港から、国道五〇四号を北へ約四キロ進むと、右前方に、円錐状のこんもりとした小高い森が見えてきます。その森の長い階段を上っていくと拝礼所があります。(写真参照)

ここは、日向三代の第二代、「天津日高彦火火出見尊」の御陵、高屋山上陵です。高屋山上陵の内面積は、約五三、〇〇〇平方メートル、形式は二段山造りの楕円形状の円墳で、いろいろな種類の巨



樹がうっそうと生い茂り、時の流れを物語っています。

また、御陵の西側に位置する駐車場からは、ほぼ平坦な参道が舗装整備されており、年間を通してたくさんのかたがたが訪れています。

さて、尊の御陵は、古事記に「日向の高千穂の西に在る」と記され、日本書紀には「高千穂の西、高屋の山のの上に葬る」とあります。

そのことから、高屋山上陵の場所については、明治政府によって明治元年、三年、六年と慎重に調査を重ね、同七年七月、現在地に定められ明確にされました。

ちなみに尊は、「山幸彦・海幸彦物語」の山幸彦尊です。

また、高屋山上陵の東南方向に位置する丘を「大河内岡」といい、地域で

は山幸彦尊が豊玉姫を見初めたところすなわち「みそめが丘」と伝えられており、「溝辺」の語源とも言い伝えられています。

なお、「天津日高彦火出見尊」の御皇霊は鹿児島神宮に祀られています。尊の御父君の「天津日高彦火瓊杵尊」は、薩摩川内市の可愛山上陵に祀られ、その御皇霊は霧島神宮に祀られています。

また尊の御子「鸕鷀草葺不合尊」は、鹿児島市吾平町の吾平山上陵に葬られ、その御皇霊は、宮崎県の鶴戸神宮に祀られています。

このように県内には、日向三代山上陵がありますので、山上陵めぐりなどいかがでしょうか。

(文責：三)

溝辺町郷土誌より